



企業と変化という未来

令和 7 年 6 月 23 日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

時代変化は可能性である。これらを有するのは新しい挑戦者である。

これらは技術と製品、システムにおいて世界の頂点を得ることができれば、企業はその自己プレゼンスと現実を求めることができるものである。

これらは視点と基準の転換において企業が未来を求めることが可能であることなのである。

これらは製品開発に対する高い自己基準は、企業がそれら現実において未来を有する正しい選択なのである。

これらは企業製品が企業を決定することは新しい市場においては完全に正しいのである。

また今日の変化を生き残ることに、それら世界の先端性を自己において有することは企業の生き残りにおいて不可避の現実なのである。

これらが次世代という新たな市場の転換と新しい需要であり、それをけん引するのは、新しい現実すなわちその技術とシステムなのである。

これらは企業の開発環境において全く新しい視点を要求されるものであり、自社の製品が新たな企業の未来を決定することは必ず存在するのである。

これらは他方において企業の飛躍がそれら新規開発環境と製品化において可能であるということなのである。

唯一留意すべきは、市場において現実とは新たな世代への転換を既存ものとするものであり、それら新たな技術製品基準は既存の市場のスタンダードなのである。

これらはグローバル市場の統一における絶対的な現実であり、企業がその未来という現実へ到達する唯一の選択なのである。